

---

メリーポピンズ清瀬ルーム

令和5（2023）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

---

株式会社 学研データサービス



1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげて教える人 より良い保育を目指して創意工夫していける人</li> <li>・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。</li> </ul>

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	<p>どろんこ会グループの保育理念「にんげん力」を育むため、創意工夫をしてより良い保育を目指しています</p>
	内容	<p>どろんこ会グループの「基本運営理念」「保育理念」「2大保育目標」は、段階を踏んで合理的に分かりやすくスタッフに伝え、具体的に「私たちが育てる6つの力」を示し、「にんげん力」を育てています。園の保育活動はコンピテンシーを理解したスタッフの主体的な行動となり、年度が始まる前の策定会議やキックオフミーティングで園の方向性を理解し、スタートしていきます。基本的なマニュアルの整備や各種研修の実施は、成長を支援していきます。スタッフは常に成長を意識し、より良い保育を旨として創意工夫をする企業風土となっています。</p>
2	タイトル	<p>0歳児から参加することができる食育活動を提供し、子どもが経験からたくさんの学びができるよう配慮しています</p>
	内容	<p>年間食育計画の立案は0歳児クラスから参加する事ができる内容にし、食への関わりを通して様々な事に興味広がるよう支援しています。翌日の給食で使用する食材を見る、触るから始めて、少しずつ皮むきなど難易度を上げていき、味噌作り、おにぎり作りなどの調理活動も取り入れています。魚を捌いて食べることで命の大切さを学ぶ、園庭で野菜コンテナを使用してトウモロコシ、じゃが芋、トマト、大根の栽培など実際に体験することを大切にしています。今年度は3種類程栽培した大根が豊作だったことから、たくわん、切り干しなどに加工しました。</p>
3	タイトル	<p>系列園との交流や近隣の園を行事に招待するなど、子どもが様々な人との関わりが持てる機会を確保しています</p>
	内容	<p>市内に系列4園があり、園庭が広い園に遊びに行ったり、土曜日保育を合同で実施したり、他園の子どもと顔なじみの関係性を築いています。その他にも、園庭で栽培したさつまいもを持って、系列園の園庭で焼き芋会をしたり、ヤギやニワトリを飼育している園にバスで行って動物のお世話をしたりするなど、定期的な交流を行っています。地域子育て支援事業として行う園行事の際には、系列園だけではなく近隣の園の参加を歓迎しています。卒園後に入園する3歳児以上のクラスがある園との交流は、環境に慣れていけるよう積極的に働きかけています。</p>
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	<p>個人別育成計画についてのスタッフの理解を深めるよう、個別面接時にていねいに説明していく事を期待します</p>
	内容	<p>今年度から運用を開始した人事制度は、資格等級ごとに求められる職務や職責が明示され、評価は目標管理シートによって、事業計画とコンピテンシーブックに連動したスタッフ個々の取り組み内容を設定し、その達成状況などを基準に評価をしていきます。施設長は半期ごとに面接を実施し、取り組みへのアドバイスと次期育成計画を個々に伝えていますが、育成計画についてスタッフの理解度に差がある傾向が自己評価に表れています。スタッフの入れ替わりがあった事も影響している可能性があります。個別面接時にていねいに説明していく事を期待します。</p>
2	タイトル	<p>保護者には登降園時に保育者から積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を構築していけるよう園全体のスキルアップを図っています</p>
	内容	<p>保護者には朝、夕の登降園時に子どもの様子について相互理解に繋がるよう、保育者からコミュニケーションを取って信頼関係構築に向けて動いています。法人全体で3分を目安にその日の子どもの様子を報告する、「3分間対応」を取り入れています。送迎が重なると十分な対応が難しいこと、担任以外の職員からの報告はエピソード記録を添えづらく、いつも単調になってしまうことなどが課題に挙がっています。新しい職員も増えたことから全体のスキルアップを図れるよう、園内研修などでていねいな対応、伝え方のポイントなどを学んでいます。</p>
3	タイトル	<p>大災害発生時の事業継続について初期活動を明確にし、職員への理解をさらに深め対応できるようにしておくとう良いでしょう</p>
	内容	<p>どろんこ会グループの「クライシスマニュアル」には災害や事故など様々なケースでの行動基準を示し、園は避難訓練を毎月実施しています。大災害発生時の事業継続については「事故発生時対応フローチャート」に、復旧のための初期活動や園への参集条件を記載しています。しかし混乱する状況下で、通信インフラが機能しない中でも統制のとれた活動ができるよう、特に大災害後の初期活動において、一次参集者と安全を確保しながらどのような活動をするのか明確にし、職員への周知と理解をさらに深め対応できるようにしておくとう良いでしょう。</p>

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	地域の子育てニーズに応え、様々な事業を実施し信頼される園を目指しています	
内容①	<p>地域子育て支援「ちきんえつぐ」を開設し、地域貢献に取り組んでいます。活動内容は、週5日室内遊びと子育て相談を行い、青空保育として毎月1回公園での出張保育、芸術学校として劇団員による人形劇、プロ奏者によるハーブのコンサート、パフォーマーによるパントマイムショー、マジックショーなどを無料で開催し、系列園だけではなく近隣他園の子どもたちを招待し、交流する機会を設けています。また、実習生や夏のボランティアとして地域の小中高生を多数受け入れ、地域の一員として信頼され、開かれた園づくりを目指しています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	就業環境への配慮と、スタッフ間の工夫によってチームワークの意識が育っています	
内容②	<p>就業状況については残業時間ゼロを目指し、有給休暇取得はシフト表作成前に希望日を確認し計画的な取得ができるように配慮しています。休憩時間については、きちんと取れるようにするため、休憩場所を複数設置しローテーションを組み、取得時刻をホワイトボードに記入しスタッフは共有していきます。休憩時間中は社用携帯電話を所定のカゴに保管するルールも作っています。また、スタッフ一人ひとりの得意分野を生かして、不得意な分野を持つスタッフに協力し支援する事でチームワークの意識が育ち、勤務時間内での終業に結び付いています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル③	発達に合わせて保育室の環境を整えて、子どもの健やかな育ちを引き出しています	
内容③	<p>子ども一人ひとりの発達は保育日誌、毎月の個別計画、個別省察、個別記録に残して、職員間で共有して保育を組み立てています。園は0歳児から2歳児クラスの乳児保育園で、年度初めから秋頃までは各クラスで過ごしますが、状況に応じてクラスのパーティションを外して、広々としたワンフロアの保育室へ仕様変更しています。異年齢で過ごす時間が増えることから、互いの遊びが交わらないよう、安全にも配慮した保育環境を整えています。保育室内は、遊び、睡眠、食事の場所を固定化して、活動が途切れない、流れる保育の提供に繋がっています。</p>	

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	<b>「基本運営理念」「保育理念」「2大保育目標」について、常に意識を高めています</b> どんご会グループの「基本運営理念」「保育理念」「2大保育目標」などについて、毎年9月の法人全体研修で法人代表から直接説明があり、2月と3月の次年度計画策定会議、3月末のキックオフミーティングでも園目標や事業計画書などを基に理解を図っています。新卒スタッフには配属前の3月に系列他園でOJT研修が実施され、実務を通じて保育理念などの理解を深めています。保護者には入園のしおりを用いて園見学时などに説明し、保護者懇談会や保護者参加行事でも伝えています。玄関への資料掲示により、常に確認できる状態となっています。 <b>どんご会グループは進むべき方向を共有し、理念や目標の実現に向かっていきます</b> 法人の全体研修で現状認識や進むべき方向、取り組みなどが示され、12月に運営本部が策定した運営本部Missionを基に各園は事業計画書策定やスタッフの目標設定に反映していきます。施設長は、事業計画書を策定会議で確認し、スタッフの理解を深め計画書を確定していきます。リーダー層は園全体に関わることや育成のための役割などを自覚して取り組んでいくよう位置づけ、新卒スタッフには保育の基本部分からいねいに伝えるなど、施設長は法人の理念や方針、園目標や事業計画書の実現に向け方向性を示し、リーダーシップを発揮しています。 <b>重要な案件は園会議での検討や決定を原則とし、スタッフの共通認識を図っています</b> 重要な案件は園会議で検討することを原則としていますが、月1回開催のためすぐに園会議がない場合は、昼礼などで検討する場合もあります。決定した内容や検討の過程は会議議事録を作成し、回覧後に押印簿に押印をすることで伝達漏れがないようにし、口頭伝達も行っています。連絡事項などについてはシッターノートで伝え、スタッフ間での共通認識を図っています。保護者に対して、重要な案件に関する決定事項は随時おたよりの配布や連絡用アプリで配信し、お迎え時などに配信された内容を改めて口頭で伝え、質問があれば随時対応しています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>6/6</b>
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者アンケートや日々の会話などから、情報や園の課題を把握しています</p> <p>利用者アンケートはWeb上で毎年9月頃に実施し、個人面談は保護者の希望に沿って随時実施しています。懇談会は年2回開催し、園全体の状況やクラスの様子を伝え、保護者からの意見や提案を確認する場になっています。送迎時の会話は、気になることを話し合えるように配慮し、連絡帳やご意見箱からも情報や意見、提案を確認しています。スタッフからの意見などは、個人面談時の意向確認や各会議での発言などで把握しています。地域の状況は行政からの様々な情報を得て、福祉全体については法人内勉強会やマスコミ情報などで把握しています。</p> <p>どろんこ会グループの理念やビジョンを実現し、常に選ばれる園を目指しています</p> <p>施設長は園を取り巻く環境や状況を踏まえ、常に選ばれる園になるためにどのような差別化を図るか、これからの子どもにはどんな力が必要なのか、どろんこ会グループの理念やビジョンについて学びを深め、目指す姿の実現に努めています。法人内の勉強会や研修、社内報からも学び、自らもファシリテーターとして伝えています。毎月の経営状況は予実管理表で把握、検討し、1年間の見通しを持って収支バランスの適正化に注力しています。指標となる入所率に関しては本部と連携し、より詳細な情報を基に入所率向上のための対策を講じています。</p> <p>園の3か年計画と事業計画書は連動し、各会議での確認により着実な進捗をしています</p> <p>どろんこ会グループの中期計画と運営本部missionを基に、園での課題に対してどのような行動ができるのかを踏まえて、本部と連動した園の3か年計画、事業計画書、全体的な計画などを2回の策定会議の中で検討し、スタッフと共有しています。予算措置が必要な研修や備品購入は、事業計画書に計上していきます。計画推進は、定期的開催する会議や委員会、毎月の施設長会議で確認し、事業報告書に一年間の総括を明記しています。スタッフとは半期に一度個別面談で進捗状況を確認し、パートスタッフとは3か月に1回会議を開催しています。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

様々な取り組みで法、規範、倫理を遵守する精神が高い組織風土となっています

全スタッフには、保育品質マニュアル、就業規則、社内報「創園」で守るべき法、規範、倫理を示し、定期的に児童・保護者の人権に関するチェックリストで、子どもの尊厳を守る保育ができているか確認し、毎月のコンピテンシー(高い成果を出す行動特性)の学びによって、専門職としてどのように保育活動などを実践するのか気づきを得ています。また、全体研修や園会議で、人権やコンピテンシーの振り返りを行い、情報セキュリティチェックやコンプライアンスチェックなども定期的を実施しています。法、規範、倫理を遵守する精神が高い組織風土です。

苦情解決の相談窓口や仕組みは資料に明記し、説明や掲示で周知しています

利用者の苦情解決への取り組みは、入園時の説明だけでなく、「苦情解決につきまして」の資料をリングファイルに綴じて玄関に設置し、保護者がいつでも確認できるようにしています。苦情や意見などは電話、口頭、メール、書面、面談、園玄関設置のご意見箱などで受け付けており、施設長へ申し出る事を基本にしていますが、場合によっては本部や第三者委員にも相談できる事も周知しています。苦情申出があった場合は報告書を作成し、スタッフと共有し園としての解決策や改善に向けての対応を話し合うなど、組織的にスピーディーに対応しています。

人権を擁護し虐待を防止するため、各種研修の実施と内部通報システムを導入しています

毎年キックオフミーティングで子どもの人権について学び、スタッフの不適切な言動がないよう4、10月に児童・保護者の人権に関するチェックリストでの確認や虐待防止研修を行っています。疑わしい言動を見かけた場合は施設長や本部担当課長に報告するよう定め内部通報システムを導入しています。虐待と疑われる情報を得た時は関係機関と連携し対応します。園の透明性を高めるため、子育て支援活動の拠点として自然食堂、芸術学校、園庭開放などを展開しホームページなどで発信しています。今年度実習生やボランティアは約20名受け入れています。



カテゴリ4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p><b>子どもの生命を最優先に考え、スタッフの危険察知能力を高めています</b></p> <p>事故や災害に関わらず、子どもの命を守る事を最優先に避難訓練、不審者侵入対応訓練、水の事故に対する訓練などを行っています。保育運営マニュアルは毎年5月までにスタッフ全員が再読し意識を高めています。また、見失いや置き去り事故防止に関して、人数確認リーダーを定め、戸外活動時には2名以上でダブルチェックを徹底しています。日々のけがに関しては、予測しながら保育を実践し、リスクマネジメント研修ではあらゆる危険を想定するなど危険察知能力を高めています。重大事故等は事故防止委員会で分析し、再発防止に努めています。</p> <p><b>「クライシスマニュアル」を策定し、復旧のための初期活動を明記しています</b></p> <p>どろんこ会グループとして「クライシスマニュアル」を策定し、大災害発生時の行動を示し訓練などを行っています。大災害発生時には法人本部に対策本部が設置され、各園と連携を取り「事故発生時対応フローチャート」に基づき行動し、園への参集者と復旧のための初期活動を明記しています。通信インフラが機能していれば、社用スマートフォンで対策本部と園の情報共有を速やかに行います。防災自主点検で備品、避難用具、備蓄品チェックを実施し、保護者への周知は入園時に重要事項説明書で周知し、必要に応じ連絡用アプリなどでも伝えています。</p> <p><b>ICT機器のセキュリティ対策を講じるなど、情報管理に細心の注意を払っています</b></p> <p>情報管理体制を構築し、秘密情報管理規程などを定め、年に2回「情報セキュリティチェック」を実施しています。機密性が高い情報については園内と本部管理のサーバーに保管し、使用するパソコンを限定し、個人アカウントとパスワードによってアクセス制限をしています。貸与したスマートフォンにはパスワードを設定し、情報確認や入力、保育の様子を撮影しています。画像データは使用後1週間以内に削除しています。個人情報に関する紙媒体は鍵付きの書庫で保管し、鍵は施設長が管理しており保管期限を過ぎた紙媒体は溶解処分しています。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

#### カテゴリー5の講評

##### 採用活動は本部人事採用部に一本化し、理念に共感した人材の採用を目的としています

どろんこ会グループのホームページや求人サイトで求める人材像、職場環境、研修制度などの採用情報を発信しています。採用活動は本部人事採用部に一本化し、新卒者説明会、園見学、面接などを行い、理念に共感した人材の採用を目的としています。各園は実習生対応、園見学実施、非常勤スタッフの面接を行い、園が必要とする人材は本部人事採用部に伝えていきます。現スタッフとの個別面談で能力開発や保育観を共有し、定着に努めています。異動や配属は意向調査を実施し、運営本部で意向、能力、各園状況などを踏まえ総合的に判断し決定しています。

##### 人事制度は、等級、目標管理、評価、報酬が連動した制度となり運用が始まりました

人事制度は、等級、評価、報酬などをどろんこ会グループとして定め、各等級ごとに役職やどのような職務遂行能力が求められているのかを示しています。評価については目標管理制度を導入し、部門と個人の取り組み内容を設定し、その達成状況から昇格や昇級を決定し、報酬と連動していきます。スタッフは設定した目標について業務進捗状況や振り返りを年間3回施設長との面談を通して確認し、次年度の目標管理制度へ反映していきます。これらの一貫性ある制度により長期的な展望を描くことが可能となり、2023年から運用が始まっています。

##### 園内コンピテンシー研修や本部の各会議は、スタッフの意欲と成長を支援しています

育成のために園内コンピテンシー研修や本部の子育ての質を上げる会議、主任会議、社内限定講座などが実施され、スタッフの成長を支援しています。研修で得た学びや業務改善への提案は園会議、昼礼などで発表し、意見を出し合い共有しています。就労面については、スタッフは得意分野を生かし協力して勤務時間内に終業するよう工夫しています。有給休暇取得、休憩時間確保などは希望を確認し、反映できるように配慮しています。施設長との面談で悩みなどへのアドバイスを受け、地域系列4園の合同懇親会など意欲や働きがいの向上に繋がっています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題は、「子どもの姿を的確にとらえ、子どもが主体的に集中して遊び込める環境を構築する」としました。課題とした背景には、スタッフが子どもの発達について理解が不十分なため、保育環境は子ども主体ではなく大人主体の環境構成だった事があります。園長の交代を期に、それまで以上に子どもの姿をいねいに捉え、3か月、半年の単位で室内環境の見直しを図っていきました。子どもの成長に焦点を当てた様々な検討を続け、10月の運動会が終わった頃には、子どもの育ちを見極めパーティションを取り払い、室内環境の大きな見直しに着手しました。取り組みの結果、子どもたちは主体的に自分で好きな遊びを見つけて集中して遊び込んでいきました。その結果、子どもは大人が考えるよりはるかに成長している事がはっきりと分かってきました。スタッフにおいても環境づくりに関しての意識の変化があり、重要課題は100%達成できたと考えています。今年度においても、引き続きその時々の子どもの姿から適した環境を柔軟に構築し、保育の質の向上となっていく事を重要課題として取り組み、子どもの成長を保護者と共に分かち合えるような工夫を目ざしています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園長は2022年度に就任し、法人理念や保育所保育指針を基本にした保育の展開が足りないと感じたため、スタッフの意識を変えて大人主体から子ども主体の保育への転換に取り組みましたが、各保育室のパーティションを取り払う事については不安や反対の声があり、短期間でスタッフの意識を変えていく事は大変難しく感じました。また、保護者からは事前に説明が欲しいという意見も出ていました。しかし、パーティションを取り払ってみると、抵抗感があったスタッフたちの心配をよそに、子どもたちは落ち着いて柔軟な対応をし、自分で好きな遊びを見つけ、各コーナーで伸び伸び取り組む姿があり、子どもは大人が考えるよりはるかに成長している事が実感できました。結果として、スタッフは子どもへの理解を深め、納得した部分もあり、徐々に意識の変化が出てきました。副次的な効果として、自然な形での異年齢保育は子どもの成長に繋がり、スタッフが園全体を意識するようになってきました。今後は、3か年計画に基づき発達の連続性を踏まえ、保育の質やスタッフの専門性の向上、具体的にはポートフォリオ作りから子どもを理解し、「子どもが主体的関わられる最善の環境作り」に取り組んでいます。

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>前年度二つ目の重要課題は、「コロナ禍の中であっても対策を講じて地域との関わり方を模索し、その方法を見つけていく」事としました。課題とした背景には、新型コロナウイルスがどうなっていくのかわからない中で人と人との関わりを制限せざるを得ない状況となり、迷う事もありましたが、子どもの成長のためには少しでも関わりを増やしていく事が重要だと考えたためです。取り組みは法人本部の確認を取りながら、参加人数を制限したりして行事を少しずつ復活させ、平常に近づけていきました。園行事として運動会、生活発表会、卒園を祝う会、地域活動事業として表現活動を年3回、パントマイム1回、人形劇2回、アロマクラフト3回実施しました。行事は保護者の参加人数制限を段階的になくし、地域活動事業では換気に注意しながら実施し、他法人の園、地域の親子含め、最大118名が参加した日もありました。その結果、多くの取り組みができ、目標はほぼ達成できたと考えています。今年度においては、新型コロナウイルスが5類へ移行し、通常の生活に戻っていくため、行事や異世代交流の充実を目ざし、園と同じ建物の1階にある高齢者施設との定期的な交流に取り組んでいます。</p>	
<p>目標の設定と取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>前年度の取り組みは、感染防止対策としてマスク着用、換気、人との間隔の確保などをしながら、地域活動事業として表現活動、パントマイム、人形劇などを開催し、園行事として運動会、生活発表会、卒園を祝う会などを実施しました。園行事への保護者参加は段階的に、まずは1家庭2名まで、その後祖父母の参加も可能とするなど状況を見て判断し、その対応は保護者から喜ばれました。結果、少しずつ従来の取り組みに近づき、多くの交流や行事を実施することができました。行事後は、当日のうちに全スタッフで振り返りを行い、その記録として残した活動報告書を検証して、次年度の参考にしたいと考えています。今年度も引き続き、園の1階にある高齢者施設と定期的に交流する予定で、既に打ち合わせを実施し、計画表を高齢者施設と共有しています。今後、こうした異世代交流の回数をさらに増やしていく予定です。また、コロナ禍での副次的な効果として、対面の機会を少なくするために連絡用アプリを活用して子どもの様子を多く発信したことで、保護者からは「毎日、写真付きでタイムリーに子どもの様子を見る事ができて楽しい」との声もあり、今年度においても充実した情報発信を目ざしています。</p>	

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(0000)</p>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリ-1の講評		
<p><b>入園のしおりやホームページで、園の保育内容について分かりやすく伝えています</b></p> <p>入園のしおりは主に園見学者に配布しており、「私たちの子育て」として経験を大切に保育、「人を頼り、尋ね自分で考え行動してゆくように導く」といった基本姿勢のほか、「運営理念」、「子育て目標」、「デイリープログラム」、「子育て内容(活動内容)」など、園の保育の特徴を分かりやすく伝えています。ホームページには園だよりや年間スケジュール、献立表、食育・保健だより、畑仕事の様子を掲載したり、子どもたちの取り組みの様子を写真とともに紹介したりして、保育内容や活動内容についてより分かりやすく伝わるよう工夫しています。</p> <p><b>市と連携し、園の情報を市のホームページや保育園情報の冊子に掲載しています</b></p> <p>市のホームページでは、園の所在地や開園時間、受け入れ年齢、定員、地図などの基本情報を知ることができます。園のホームページへのリンクも貼られており、さらに詳細な情報を入手することができる仕組みになっています。市が発行している市内の保育園情報が掲載されている冊子にも、園の基本情報を掲載して、入園を希望する地域の人へ必要な情報を発信しています。園での人形劇、マジックショー、ハーブなどの催しの案内は、市役所、児童館、子育て支援関連施設に設置をお願いして、参加を呼びかけています。</p> <p><b>園見学者と日程調整を行い、多くの人に園を見てもらう機会を確保しています</b></p> <p>見学者と日程調整を行って、なるべく多くの方が希望の日に見学ができるよう対応しています。見学者には園のしおりに沿って保育内容を説明し、より園の保育についての理解が深まるよう働きかけています。保育方針や、0歳児から2歳児クラスまでの保育園であること、午前・午後ともに散歩に行くなど園外活動が多いこと、「足指で地面をとらえる力を育てる」ことを目標に裸足保育を取り入れていることなど、園の特徴について説明を行っています。見学者の質問にもていねいに対応して、入園に向けた不安の軽減に努めています。</p>		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園前面談では、入園のしおりに沿って新生活のルールの説明をしています</p> <p>入園前面談を実施して、入園のしおりに沿って園の保育方針、目標、保育内容など基本的な保育の内容や、利用料金、延長保育、医師の診断書が必要な疾病など、園のルールを説明しています。面談の最後には、重要事項説明書の記載内容について、説明漏れがないかチェックリストで最終確認をしています。保護者には、あらかじめ「入園前面談票」に子どもの既往歴、発育、食事、アレルギーの有無など、入園までの成育歴を記入してもらいます。面談で新たに得た情報があれば「入園前面談票」に追記して、新生活を始める際の保育に反映させています。</p> <p>保護者の就労状況を把握して、慣れ保育の期間が負担にならないようにしています</p> <p>入園前面談では、保護者の意向や配慮してほしい点、慣れ保育の希望期間について聞き取りをして、子どもが新しい環境や周囲の大人に少しずつ馴染めるよう配慮しています。慣れ保育はおおよそ2週間程度の期間を想定しており、最初の数日は1時間程度の滞在から始めて、食事まで、午睡まで、おやつまでと、徐々に通常保育にしていきます。子どもの様子をみながら、保護者と相談して次の段階に進めています。入園直後は連絡帳アプリと口頭でも子どもの様子をていねいに伝えて、保護者の不安軽減に努めることで信頼を得られるよう努めています。</p> <p>3歳児クラスからの転園先は、情報共有をして保護者の不安軽減に努めています</p> <p>園は2歳児クラスまでの受け入れであるため、3歳児クラスからは新たに転園先を探す必要があります。新しい生活を始めるにあたっては、保護者の不安に寄り添い、必要であれば転園先に情報共有を行うなど、子どもが新しい環境になるべく早く馴染めるよう支援しています。市内に3歳児以上のクラスがある系列園が2園あり、そちらへ転園する子どもについては継続的にフォローして成長を見守っています。また、市内保育園の園長会議などで他園と連携し、転園先での様子を共有していくことで、継続した関わりができるよう配慮しています。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況 13/13

評価項目1  
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2  
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3  
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4  
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

**子どもの成長は所定の各種様式に定期的に記録して、スタッフ間で共有しています**  
園では、個人記録に毎月の保育目標と計画を立て、月末には省察を実施して一人ひとりの成長を記録しています。個別記録には毎月の子どもの姿や家庭での様子、保護者の意向を記入し、できるようになったことにチェックを入れて発達段階を適切に把握しています。次案を立てる際には、前月の子どもの姿を踏まえて計画を立て、連続した保育を提供しています。記録物にはエピソード記録を採用することで、子ども一人ひとりの姿をしっかりと把握して、発した言葉や表情などを見逃さずに記録し、保育に生かしていけるよう努めています。

**全体的な計画を基に年間保育計画など各計画を立案し、子どもの育ちを引き出しています**  
全体的な計画は毎年2月の策定会議にて、全スタッフで園目標を決めて同じ方向を向いた保育に取り組んでいます。今年度の園目標は「わ(我、話、和)を大切に楽しいことを見つけよう」として、年間保育計画などの各種計画類にも反映させています。年間指導計画は、前年度の振り返りを踏まえて担任が話し合い、子どもの育ちやその年のクラスカラーに合わせた内容を落とし込んでいます。月案、週案はクラス担当者が省察を踏まえて次案を立案する形を取ることで、統一した保育を提供して、子ども一人ひとりの発達に合わせた成長を引き出しています。

**園会議、クラス会議などを定期的に実施して子どもの情報をスタッフ間で共有しています**  
毎月の園会議では、各クラスからの報告、課題などについて共有して、園全体で子どもに関する情報を共有しています。クラス会議では、月間保育計画の立案について担当者同士が話し合い、一人ひとりの子どもの成長や、その月の姿を共有して、個々の子どもに合わせた必要な保育の提供に繋がっています。今年度11月の園内研修では、配慮が必要な子どもについてクラス担当者がどのような関わり方が効果的か、気持ちの切り替えはどうしたらよいかなどを共有して、クラス担当以外のスタッフが関わる場面でも同じような支援が提供できるようにしました。



サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>入園時にどろんこ会グループの個人情報の取り扱いの基本姿勢を説明し同意を得ています</p> <p>どろんこ会グループにおける個人情報の取り扱い、基本姿勢については入園時に説明を行って、保護者の同意を得ています。情報収集の目的、収集する情報の種類、情報管理、および第三者への情報提供については、厳重な管理下で行うことを明記しています。また、緊急時に警察署、児童相談所、行政各所、医療機関などに子どもや保護者の情報を開示、使用する際には必要最低限に留めることを基本としています。写真、動画の園内での掲示、ホームページなど外部への使用については、保護者が同意した範囲で行い、信頼を得られるよう努めています。</p> <p>子どもの羞恥心、自尊心に配慮するため、園内環境や支援方法の振り返りを行っています</p> <p>トイレの失敗などで着替えが必要な時には、他の子どもから見えない場所に誘導し、着替えの際には全裸にならないように子どもに声を掛けて、習慣化を促しています。名前を呼ぶ時には必ず敬称を付け、呼び捨てやあだ名をで呼ぶことはしない、子どもが興味を示したものはできるだけ見守る、活動に取り組んでいる場合は安全を確保して必要最低限の補助を行うなど、保育者主導で進めるのではなく、子どもの主体性を尊重した保育を大切にしています。0歳児から2歳児クラスの園のため、保育者が手を出しすぎることなく、見守る姿勢を基本としています。</p> <p>毎年2回、人権チェックリストにて子どもの人権について確認し、保育に生かしています</p> <p>毎年2回「保育品質マニュアル」の児童・保護者の人権に関するチェックリストを活用し、子どもの人権について定期的に確認を行い、日々の保育を振り返り、より良い支援に繋げています。チェックリストは「育つ」「生きる」「参加する」「守られる」の4つの視点から構成され、子どもの権利が奪われていないか、周囲の大人が見過ごしていないか常に考えながら一人ひとりを大切に保育を行っています。どのような行為が不適切保育に繋がるのか意識しながら保育を提供しており、保育者同士で声を掛け合うことで意識を高めていけるよう努めています。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>「保育品質マニュアル」は会議などで読み合わせを行って業務の標準化を図っています</p> <p>どろんこ会グループ共通の「保育運営マニュアル」は各園に1部ずつ配付されており、業務に必要な箇所を見返して、マニュアルに沿った基本対応を行っています。全スタッフに「保育品質マニュアル」が配られ、園運営、保育全般に関わる内容について、共通理解となるよう会議などで読み合わせをし、業務の中で実際に確認をしながら標準化を図っています。マニュアルは年度毎に改訂があり、修正箇所の共有、読み合わせを実施してマニュアルに沿った保育の提供に努めるとともに、標準化を図ることで職員のレベルを保つことができるようにしています。</p> <p>利用者アンケートの結果は良い運営に繋がられるよう改善に向けた対応を講じています</p> <p>利用者アンケートを毎年実施して保護者からの提案は、より良い園運営のための改善策に生かしています。アンケート結果は保護者に公開して、改善に向けた取り組みや姿勢を伝えることで、信頼を得られるよう努めています。今年度、保護者から「降園時にもう少し子どもの様子を知りたい」と意見が挙がったことから、園内研修を実施してエピソード記録の伝え方、子ども一人ひとりの保育中の様子をどのような視点からとらえればよいのかなど、ていねいな関わりの中から子どもの表情を見逃さないようにして、保育の質を高めていくことを目指しています。</p> <p>次年度に提供する保育について、全スタッフがプレゼンテーションをして決定しています</p> <p>次年度の保育内容については、年度末の策定会議で保育の振り返りを行い、遊びを通して子どもの姿に合わせた経験や学びを得られるように保育内容を考察して、意見を出し合って決めていきます。全スタッフが企画案をプレゼンテーションし、様々な意見を拾い上げて、本園らしい取り組みの全体像を作っていきます。園は、子どもたちが経験からの学びを積み重ねていくことを大切にしており、次年度は前年度から取り組んでいる畑活動と食育をより結び付けて、体験型の学びを増やしていきたいとしています。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	●非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達を考慮して保育室内の環境整備や保育者の関わりを行っています</p> <p>子ども一人ひとりの発達における日々の様子については、保育日誌と「個別記録」「個別計画」「個別省察」を記録して、子どもの姿、成長過程を適切に把握しています。0歳児から2歳児クラスの乳児保育園のため、月齢に合わせた考慮に加えて、一人ひとりの発達過程を把握した上で日々の保育を提供しています。月齢や年齢に合わせた保育についての目安はありますが、それにとられすぎではなく個々の成長や興味に合わせて、ていねいな関わりを毎日の保育の中で繰り返すことで、子どもが安心して過ごせる場所となれるよう働きかけています。</p> <p>年度の後半から異年齢での活動を多く取り入れて、互いの育ち合いを大切にしています</p> <p>園内はワンフロアをパーティションで仕切り、0歳児から2歳児クラスの3クラスで使用しています。0、1歳児は、徐々に保育園に慣れることができるよう、年齢による生活リズムの違いを考慮しています。年度初めはそれぞれのクラスで過ごしていますが、9月以降はクラスのパーティションを外して異年齢で過ごしています。異年齢で過ごす時間が増えることで、0、1歳児は2歳児の遊びに興味を示して観察するようになり、2歳児クラスは年下の子どもの動きに注意を払ったり、安全な場所を選んで遊んだりするなど、思いやりの気持ちが育っています。</p> <p>コーナー保育を複数設定して、子どもが好きな場所で遊ぶことができる環境にしています</p> <p>訪問調査時はワンフロアの保育室内を異年齢同士で過ごす設定にしており、年齢の垣根を越えて子どもたちが一緒に過ごす姿が見られました。保育室内は遊び、食事、睡眠の場所を決めることで、子どもたちの活動が途切れることなく次の活動に移ることができる環境が整っています。パズルや製作コーナーにはテーブルを設置して机上活動を取り入れており、ままごと、ブロックなどのコーナーやゾーンを設定して遊びに集中できる環境を整えています。好きな遊びを主体的に選ぶことで、子どもの知的好奇心を伸ばせるよう促しています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排泄つなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p><b>登園時は口頭でも保護者に子どもの体調を確認し、変化を見逃さないよう努めています</b></p> <p>登園時には検温と子どもの様子を観察し、保護者に朝の様子や、いつもと変わりがないかどうか確認しています。保護者から伝達事項がある場合は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記入し、担当スタッフに申し送りを行っています。体調が優れない様子の子どものについては、保育中に連絡を入れる場合があることを保護者に伝えて、普段より検温や体調確認の回数を増やして体調の変化を見守っています。場合によっては、保護者の意向により、戸外活動を室内に変更する、牛乳の提供をお茶に変更するなど、体調に合わせて個々に対応を行っています。</p> <p><b>子どもの成長に合わせて、段階を踏んで次の過程に移行しています</b></p> <p>子ども一人ひとりの状況を把握した上で、離乳食やトイレトレーニングを始めることで、成長に合わせた支援を行っています。離乳食の子どもについては、毎日の喫食状況について厨房担当者と無理なく食べられる量、形状、飲み込みの様子などを共有しています。保護者とは面談の中で、園と家庭での様子について共有して、子どもに負担がかからないように次の段階に進めています。トイレトレーニングも子ども一人ひとりの排泄感覚、便意のサインを見逃さずトイレに誘導して、成功体験を積み重ねられるよう支援しています。</p> <p><b>降園時にその日の様子を保護者により分かりやすく伝える工夫を重ねています</b></p> <p>降園時は子どものその日の様子について、3分を目安にエピソード記録を添えて伝える「3分対応」を取り入れています。降園時の対応において、「もう少し子どもの様子を知りたい」と保護者から意見が寄せられたこともあり、より分かりやすく子どもの成長やその日の様子を簡潔に伝えていけるよう、研修を取り入れるなどして改善に向けて動いています。また今年度からはポートフォリオの導入も始めており、毎月一人ひとりの子どもの様子を写真とエピソード記録を添えて保護者に伝えることで、子どもの成長や園での様子についての理解に繋がっています。</p>			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
<p><b>リズム、製作などの表現活動を通して子どもが様々な事に興味が湧くようにしています</b></p> <p>リズム、製作などの表現活動については年間計画を立て、日課に落とし込むことで、季節や成長に合わせた内容をタイムリーに提供しています。週案には、わらべ歌、リズム、製作、絵本についての推薦内容を併記して、日常的に保育の中で取り組める仕組みを作っています。リズムは朝の会で実施して、音の感覚をつかんで体を動かしています。製作はボディペインティング、色水遊び、さつま芋のツルでクリスマスリース作りなどに取り組んでいます。2歳児クラスでは、のり、ハサミを使用するなど、年齢に合わせた保育内容を提供しています。</p> <p><b>わらべ歌や「おはなしかご」などで言葉や周囲の物への関心が広がるよう援助しています</b></p> <p>絵本の読み聞かせを積極的に取り入れて、子どもたちが言葉への興味が湧くよう支援しています。読み聞かせの時に子どもが発する喃語に対し、色、形、動物など保育者が代弁して、子どもの世界が広がるような関わりを大切にしています。わらべ歌や手遊びも日常的に取り入れており、保育者が口ずさむのを自然と覚えて、子ども自らが歌うようになっていきます。わらべ歌、パネルシアター、手遊び、絵本などを「おはなしかご」として、子どもたちに日常的に披露する場を設けることで、興味を持って話を聞く姿が見られています。</p> <p><b>午前、午後と散歩に出かけて体を十分に動かすことで、丈夫な体作りを支援しています</b></p> <p>園庭はありますが、狭いため、天候の良い日は午前、午後の2回、近隣の公園や商店街に散歩に出かけています。散歩の時は保育者が木、花、虫などから季節の移ろいを伝えたり、目に入るものを代弁して子どもの興味を見逃さないよう努めています。夏はテラスで水遊びを楽しんだり、テラス給食では、春は園舎から見える桜で花見をしたり、秋は風、空などが夏とは違うことを自分の肌で感じるなど、季節を体感できる機会を設けています。系列園の園庭に遊びに行ったり、ヤギやニワトリを飼っている園ではお世話をしたりするなどの交流も大切にしています。</p>			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事の内容については、日常の保育を見てもらえるよう毎年話し合いながら決めていきます</p> <p>行事内容については、その年その年に合わせたものを披露しようと、毎年、白紙の状態からスタッフ間で意見を出し合いながら決めていきます。その時の子どもの姿を踏まえて「子どもたちにとって何が必要か」を考えて、経験させたい体験を活動に取り入れています。そして、日常の保育の中で取り組んでいることを行事に盛り込むようにしており、特に子どもが好きなことや集中して取り組んでいることを見逃さないで行事に反映することで、無理なく楽しく行事に参加することができるよう配慮しています。</p> <p>行事当日に普段の姿を見てもらえるよう作り込み過ぎない工夫をしています</p> <p>乳児保育園のため行事当日に泣いてしまう、保護者の側から離れないなど普段の様子とは違う様子も見られることから、あまり作り込み過ぎないようにしています。練習をしすぎてしまうと、当日までに飽きてしまうこともあることから、子どもの様子を見ながら当日に楽しみできるように配慮しています。いつもとは違う雰囲気だと緊張してしまいがちな子どもは、当日、少し早めに来て慣れさせてもらっています。発表会ではリズム、座禅、雑巾がけ、洋服の着脱などを見もらう内容にして、普段の保育の様子とともに成長している姿への理解に繋がっています。</p> <p>保護者も楽しめる内容にすることで、より参加してもらいやすいように働きかけています</p> <p>どろんこ祭り(夏祭り)では、保護者に負担にならない範囲でゲームコーナーの手伝いを募集して、自分の子ども以外の子どもとも触れ合う機会を設けました。運動会は親子で一緒にサーキット遊び、リズムなどを保育室で行って、日常の姿に近い子どもの様子を見てもらっています。保護者が参加しやすいように、年間の行事予定は年度初めに配布しています。行事の取り組みの様子は連絡帳やアプリで配信するとともに、口頭でも成長している姿を保護者に伝えて、行事当日を迎えるまでの子どもの様子を共有しています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>疲れた時にはくつろげる場所を複数確保して、無理なく過ごせる環境設定にしています</p> <p>延長保育の時間も日中と同じように、全クラスと一緒に過ごす異年齢保育を設定しています。同じ保育室で過ごすことから、子どもがいつもと同じ環境の中で安心して過ごしています。絵本コーナーの前にはマットを敷いて横になれるスペースを設置し、ままごと、ブロックはマットの上で遊べるように普段から設定されており、疲れた時には横になったり、腹ばいで遊ぶなど年齢の低い子どもが遊びやすい空間にしています。日中の様子を遅番のスタッフが引継いで、疲れている様子の子どもの中には、静かな遊びを提供するなどの配慮をしています。</p> <p>延長保育専用のおもちゃを用意するなど、子どもが楽しく過ごせるように工夫しています</p> <p>延長保育専用のおもちゃを用意し、スタッフの関わりを密にするなどして、子どもが楽しく過ごせる時間となるよう配慮しています。魚釣りゲームや日中に提供するには数が少ないおもちゃは、特別感を感じてもらえるよう延長保育の時のみ出すようにして、子どもが飽きないよう工夫しています。19時には希望者に夕食を提供して、保育者もテーブルに付いてくつろいだ雰囲気の中で迎えを待っています。少しずつ人数が減っていくことで、子どもが寂しさを感じることがないように、保育者と一緒に好きなことをして迎えを待つことができる時間になっています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>食事の時間が楽しみになるよう、体を動かしてお腹が空く感覚を大切にしています</b></p> <p>食事の時間が自然と楽しみになるように、午前中は毎朝8時20分から雑巾がけ、座禅などの活動を開始しています。外遊びができる日は9時には散歩など戸外活動を始めて、お昼の時間までにしっかりと体を動かすことでお腹が空くという感覚を大切にしています。お腹が空くから食事がおいしく感じられ、食べる意欲も自然と湧くことから、毎日の生活リズムを大切に保育を行っています。食事の時間はそれぞれのクラスに座るスペースを設置しており、好きな場所で友達と楽しく食べることで食事の時間を楽しんでいます。</p> <p><b>毎月の給食会議では、子どもの喫食状況などを全スタッフで共有して改善に繋がっています</b></p> <p>毎月給食会議を実施して、各クラスの喫食状況、離乳食の子どもについては次の段階に進めるかどうかなどを全スタッフで共有しています。食材の固さ、大きさ、味付けについても検討して、改善の必要がある際には次の提供時に見直しをしています。2歳児クラスはバイキング形式を採用して、自分で食べられる量を申告して盛りつけてもらっています。食材は素材の味を生かして出汁を使う、旬の食材を使用する、お米はどろんこ会グループが新潟で自給自足している安心、安全なものを提供して、子どもが素材そのものの味を覚えられるよう配慮しています。</p> <p><b>園庭での野菜栽培、コンポスト活動など食に関する様々な体験を提供しています</b></p> <p>栄養士など厨房スタッフと保育者が話し合いながら年間で食育計画を立案しています。園庭ではじゃが芋、さつま芋、トマト、キュウリ、枝豆、大根など栽培し、「畑仕事＝労働」として大人と子どもと一緒に水やり、草むしりなどしながら生長を観察し、収穫、調理までの一連の活動を経験します。できた野菜は子どもの目の前で調理し味わうなど五感を刺激する取り組みを大切にしています。0歳児から翌日に使う食材を見たり触ったりちぎったりし、年齢が上のクラスになるとおにぎりや梅シロップ作りなどのクッキング活動も取り入れて様々な体験をします。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>手洗い指導などを実施して、子どもが健康について意識できるよう働きかけています</b></p> <p>手洗い指導では手にスタンプを押して、正しいやり方をすると消えるという方法で、年齢の低い子どもも見た目にも分かりやすく取り組めるよう工夫しています。紙芝居で正しい手の洗い方、どうして手を洗わなくてはいけないのかなど健康を意識できるような動機付けを行って、年齢に合わせて伝え方も変えています。保育室内の手洗い場には、ばい菌のポスターを貼って、子どもが自主的に取り組めるよう配慮しています。毎日の日課であるリズム遊び、朝夕の散歩などで基礎体力強化に繋がる活動を取り入れて、健康な体作りを支援しています。</p> <p><b>医療的なケアが必要な子どもには、嘱託医と連携して園内環境、手順を整えています</b></p> <p>医療的なケアが必要な子どもは現在是在園していませんが、入園した際には嘱託医、保護者と連携をして必要な環境整備、手順を整える体制を取っています。投薬が必要な子どもには「与薬依頼票」に必要事項を記入してもらい、指定の時間にダブルチェックを行って投薬しています。嘱託医には0歳児の毎月の健診の際に、発達が気になる子どもについて相談したり、けがや体調不良の子どもへの対応や処置方法のアドバイスをを受けたり、近隣で流行している感染症についての情報を得るなど連携しながら、子どもの健康管理に努めています。</p> <p><b>園の健康管理についての取り組みを保護者に説明して、安心に繋がっています</b></p> <p>乳幼児突然死症候群の予防については、呼吸や体位確認の間隔、寝具・衣服など周辺環境の整備、体に触れて熱がこもり過ぎていないか確認をするなど、園の対応を入園時に説明して保護者の安心に繋がっています。季節ごとに流行が予測される感染症については、毎月の保健だよりで注意喚起をし、園内で感染症が発生した場合には、園内掲示やアプリを使用して保護者に伝えていきます。保健だよりには免疫力を高める日々の習慣、裸足保育、薄着保育など、園の保育と関連性のある内容を載せて、保護者との共通理解を図っています。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>急な残業などによる延長保育も受け入れ、保護者の就労を支援しています</b></p> <p>急な残業などで延長保育を利用したい場合は、当日の利用であっても気兼ねなく延長保育を活用してもらっています。就労以外でも個々の事情に合わせ、リフレッシュ目的などでの受け入れも行っています。保護者の就労を支援できるよう、朝の忙しい時間には保護者は靴を脱ぐ必要がなく、受け入れは玄関先で対応しています。また、荷物のセッティングやシーツの取り外し、取り付けは保育者が行うことを基本姿勢としており、その他にもオムツは袋に記名してもらっただけで一枚一枚に記名の必要はないなど、保護者の負担軽減を図っています。</p> <p><b>保護者懇談会や行事を通して、保護者同士が交流できる機会を設定しています</b></p> <p>6月と11月の年2回実施している保護者懇談会では、クラスごとに目ざす姿、年齢に合わせて見られる発達の説明、伸ばしていきたいことなどを説明して、保護者と子どもの育ちについて共通理解が得られるよう努めています。懇談会では園からの説明だけではなく、今抱えている悩み、家庭での様子など保護者に共通するような話題を取り上げ、保護者同士の関係性が広がっていく機会を提供しています。また、園への要望や意見を聞くことができる機会としており、保護者に発言してもらえるよう促して、保育をより良いものにできるよう努めています。</p> <p><b>保育参加や行事の手伝いなど、子どもの様子を知ることができる機会を設けています</b></p> <p>保育参加では保育者体験を通して、友達との関係性、クラスの様子、保育者との関わりなど日頃の姿を見てもらっています。今年度のどろんこ祭りでは、保護者の負担にならない範囲で手伝いを依頼して、行事と一緒に盛り上げてもらう機会を設けています。個人面談は、特に期間を設定せずに随時実施をすることで、保護者の不安や相談に寄り添えるよう努めています。降園時にはその日の子どもの様子をエピソード記録を添えて伝えていけるよう、現在園全体で研修などを実施してレベルアップを図っています。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>商店街ツアー、高齢者施設や系列園との交流など、地域と交流しています</b></p> <p>散歩で近隣の商店街を通る際には挨拶をするとともに、毎週の商店街ツアーでは郵便局、ドラッグストア、コンビニ、スーパー、お寿司屋、クリーニング屋、パン屋などに協力をしてもらい、子どもたちが地域に暮らす人たちがどのように生活をしているのか、どんな仕事があるのかなどを知るきっかけになっています。園と同じ建物の1階にある高齢者施設とも毎週交流しており、子どもたちが訪問すると喜んでくれる人も多く、欠かせない交流となっています。園のすぐ近くにある系列園とは、土曜保育を合同で行うなど定期的に交流しています。</p> <p><b>園庭開放や子育て相談など、地域の人に園を開放して子どもと交流しています</b></p> <p>子育て支援事業では、園庭開放、子育て相談、着なくなった服のフリーマーケット「勝手籠」の設置、地域向けの広報誌「ちきんえつぐ」の発行を行っています。そのほか、自然食堂、寺親屋、芸術学校として、たくわん作り、サーキット遊び、クリスマスリース作りなどを園の子どもと一緒に参加してもらっています。人形劇、ハーブコンサート、マジックショーなどの催しを園で行う際には、地域の人や近隣園にも声を掛けて一緒に楽しんでいます。園庭開放は参加者数が振るわないこともあるため、次年度以降、参加者を増やすことを目指しています。</p>		

調査対象

保育園を利用している35世帯を対象に調査を実施しました。在園児は37名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法

アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数  
利用者家族総数(世帯)  
共通評価項目による調査対象者数  
共通評価項目による調査の有効回答者数  
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

利用者総数	37
利用者家族総数(世帯)	35
共通評価項目による調査対象者数	35
共通評価項目による調査の有効回答者数	18
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	51.4

## 利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が9人(50%)、「満足」が7人(38.9%)で「満足」以上の回答は合計16人(88.9%)でした。

自由意見には、「子どもが保育園に通い始めて、心身ともに成長してくれたことに感謝しています」「本人が楽しく登園できているのは、保育士のおかげです。いつもありがとうございます」「職員の皆様が親切で丁寧で、子どもの面倒を見てくれて、本当に感謝しています」「毎日写真やコメントをアップしてくれて、それが楽しみになっています」「経営層も、子どものことをしっかりと把握してくれています」「柔軟に対応してくれます」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」で100.0%、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」「行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か」他2項目で94.4%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

## 利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	17	1	0	0
「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%でした。 自由意見には、「見学できる機会があると嬉しいです」「採れたてのものを使って、食育をやってくれます」「たくさん体験をさせていただけます」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	17	1	0	0
「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%でした。 自由意見には、「日々いろいろな事を覚えてきて、できたことを家で披露してくれます」「思い切り遊ばせ、開放的に過ごさせてもらっているところが良いです。夕方の散歩などはありがたいです」「子どもも楽しそうに過ごしているのがよくわかります」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	14	4	0	0
「はい」が77.8%、「どちらともいえない」が22.2%でした。 自由意見には、「お昼ご飯の量がどれくらいかわかりません(写真で見ると少ないような気がします)」などの声がありました。				



4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	18	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「普段から、外のいろいろなものに興味を持ってくれるようになったと思います」「園同士の横の繋がりが有ります」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	13	2	1	2
「はい」が72.2%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が5.6%、「無回答・非該当」が11.1%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	14	3	1	0
「はい」が77.8%、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が5.6%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	17	1	0	0
「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	12	6	0	0
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が33.3%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	16	2	0	0
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%でした。 自由意見には、「棚の上などに、物があるのが気になります」などの声がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	12	6	0	0
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が33.3%でした。 自由意見には、「先生たちが明るいです。挨拶がしっかりしているため、子どもたちへのきちんと影響もあります」などの声がありました。 その一方で、「挨拶ができない先生、挨拶の発声が小さい先生がいる」という意見もありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	12	5	1	0
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が27.8%、「いいえ」が5.6%でした。 自由意見には、「ある程度のところまでは様子を見てくれたり、預かってくれたりするので、働く親としてはとてもありがたいです」「小さい事でも報告をしていただけるので、安心しています」などの声がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	14	1	1	2
「はい」が77.8%、「どちらともいえない」が5.6%、「いいえ」が5.6%、「無回答・非該当」が11.1%でした。 自由意見には、「まだトラブルがないので、わかりません」などの声がありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	17	0	0	1
「はい」が94.4%、「無回答・非該当」が5.6%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	17	1	0	0
「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	15	2	1	0
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が5.6%でした。 自由意見には、「アプリで写真を毎日、見せてくれます。普段の様子を写真付きでタイムリーに確認できるので、ありがたいです」などの声がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	14	4	0	0
「はい」が77.8%、「どちらともいえない」が22.2%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	9	4	2	3
「はい」が50.0%、「どちらともいえない」が22.2%、「いいえ」が11.1%、「無回答・非該当」が16.7%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				

株式会社 学研データサービス  
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8  
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都福祉サービス第三者評価機関認証  
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証  
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証  
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証  
社会的養護関係施設第三者評価機関認証